

園長だより NO55

ウイズコロナ

コロナ禍の中で多くの人は急激な社会の変化を受け入れざる得なかった。緊急事態宣言解除後から新型コロナウイルス感染防止の対策を講じながらの新しい生活様式での保育運営も当分続くことであろうと誰もが予測している。保育現場では予測で済まされず、もうすでにコロナ禍の経験を生かし新しい保育の在り方を作り始めている。

先の見えないことへの不安を口に出すより、今できることを地道に続けながら充実した日々を送ることが近い将来への明るい光につながることにあります。

子ども達の生活を見直して

感染防止対策を講じながらの園生活、多くの園が行事の在り方を見直している。

教育中心と言い、大人主導の教え込みを行っていた園に変化が見られている。大きな行事に向けての活動は練習、練習の日々を送っていた園もあるはず。成果主義に傾き、教え込みに走っていた保育、教育内容に新型コロナウイルス感染症は待ったをかけたことになる。(本来ならコロナ禍であろうとなかろうと適切な保育をするべきなのですが・・・)

大人主導の教え込み、成果主義に偏っていた保育内容を子ども主体の内容へと変化させている園が徐々に出てきている。



— ある保育園の園長のブログより—

今年の投稿ではあるが浜松市にある保育園の園長ブログの内容です。

運動会のお話、多くの園(保育園)で恒例に行っている行事についていつも不思議に思うことがある。

それはコレが何の会かということ。文字通り考えれば運動する会なのだけれど意外とそうでもありません。

色々な園のソレを見たことはないけれども話に聞くスタンダードは1歳児くらいから全園児が参加し午前中に実施するというもの、そうすると、たくさんの種目を短時間に詰め込むこととなり子ども達は運動するより遙かに長い時間待って過ごすこととなります。ともすれば1年の園生活で最も運動量の少ない日。運動会なのに、いつもより運動しない会になってしまいます。

それに、です。この行事の育ちの可視化、つまり保護者の方に子ども達の成長を見せる機会として位置付ける園が圧倒的に多く、それは保育者(保育士)が子どもを強く主導することを意味します。絶対に、そうなります。もっと簡単に言えば運動会の練習に多くの時間を費やすということです。派手なダンスや統率のとれた太鼓、そして競争が日常の大半を占めるようになります。この時期に幼児クラスの担任の声がかれているのはその結晶です。

と述べています。

投稿はとても力が入った文章ですが大きく誇張しているわけではなく、子ども主体の保育を実践している園(園長)からすれば違和感を感じ、子ども達の育ちに応じた適切な内容を考え取り組んで欲しいという願い(要望)に他なりません。



(投稿の続き)

私たちが運動会に期待するのは友達と一緒にする運動が、少しだけ楽しくなる機会となることです。運動会は目的ではなくきっかけであるべきだと考えています。だから対象を幼児だけとし、プログラムも親子で楽しむものや玉入れ等過度な運動を必要としないものを中心としているのです。

(中略)

幼児期には競争心より育むべき感情があって、それが共同心であり協調性なのだ強く思います。これらは成熟した社会的な感情では自然に育ちにくい、だからこそ運動会のテーマとする意義があるのです。

あ、でも練習しないわけではありません。それで日常の遊びを犠牲にしないというだけ、ぜひこの視点で運動会を楽しんで下さい。

そして、くどいようですがもう一度いいます。運動会は目的ではなくきっかけ。大切なのは翌日から子ども達が何かに関心を持ち、どのような活動をするかなのです。発達は日々連続しているのだから。

(終)

歯に衣きせずズバツと切り込んだ内容です。

それぞれの園、それぞれの保育者には様々な考えがありますが投稿を読み賛同した保育者は少なくないでしょう。

私にも相通じる部分もあります。

運動会は何のために行われているのか?

運動会は誰のために行われているのか?

コロナ禍の中では多様な行事の在り方を考える機会を持つことになりました。

運動会の意味合い(活動の持つべき意味)を再考することができます。

この機会に話し合い、見直しができること我が園、そして多くの園が+(プラス)にとらえていることでしょう。

少しの工夫で変わることができます。

運動会が日常の子どもの遊びや生活に位置づき子ども主体の生活(子どもが主役)になる行事になることになるでしょう。

当園では10月の中旬に「みんなのうんどうかい」を保育の中で子ども達と職員で行う予定で計画しています。

新型コロナウイルス感染防止における保護者の参観は現時点では考えてはおりません。

保護者の参観については感染状況などを鑑み、最終的に9月中旬には最終の方向性(参観の有無)を決定しお知らせ致します。

まずは子ども達と共にいきいきとのびのびと身体を動かし遊び込める環境をと考えています。

(園長 廣部 信隆)